



菅波 茂

2002年2月9日、ネパールのフトワル市にある「シッタルダ母と子ども病院」の広場で、「篠原記念子ども病棟」の発足式が盛大に開催され、同国保健大臣、日本大使夫妻、国際協力事業団関係者、地元政界、住民ら関係者多数が列席した。

篠原明医師は関西医科大学出身の小児科医。AMDAが設立したネパール西部にあるダマック病院で約半年にわたり診療活動に従事。小児の死亡率が高いことに心を痛め、子と母の専門病院設立に情熱を傾けて奔走した医師だったが、32歳で病に倒れた。

## 篠原記念子ども病棟

彼の情熱と阪神大震災被災者に対するネパールの支援に共鳴した毎日新聞社社会部とAMDAの協力で「シッタルダ母と子ども病院」が98年11月2日に発

足した。毎日新聞によるキャンペーンなどの支援により、多数の善意が今もなおこの病院の運営に寄せられている。

ちなみに「シッタルダ」とはお釈迦さんのことであり、生誕の地であるルンビニはフトワル市から30キロの所にある。

篠原記念子ども病棟の開設により、シッタルダ母と子ども病院は、首都カトマンズに日本の援助で建設された「カンティ子ども病院」に次いで、ネパール

で高機能の子ども病院になった。出産数は毎日5人。備え付けられている未熟児保育器3台が稼働し、昼夜を問わない救急患者受け入れで、病院に対する市民の信頼感も抜群である。

この病院はネパールの知恵と日本の方法論を包括した子と母のモデル医療施設を目標としている。日本の医師や看護婦が休暇を活用して診療技術や患者に対するサービスのあり方を伝えている。同時に、岡山済生会総合病院を始めとする岡山で研修したネパール人の医師や看護婦の活躍も病院の声価を高めている。ネパールを代表する母と子の病院を目指して引き続き、皆さんのご支援をお願いできれば幸いである。

(アジア医師連絡協議会代表、  
題字は筆者)